

# 2011年3月期 第2四半期決算説明資料



2010年11月19日  
株式会社 ビック東海(2306)  
代表取締役社長 早川 博己

## 2011年3月期 第2四半期累計 連結業績

(単位:百万円)

	実績	前年同期	前年同期比	公表	公表比
売上高	23,993	19,978	120.1%	23,000	104.3%
営業利益	3,301	2,308	143.0%	2,500	132.1%
経常利益	3,137	2,159	145.3%	2,300	136.4%
四半期純利益	1,729	1,183	146.1%	1,300	133.0%
1株当たり 四半期純利益	47.02円	31.63円	148.7%	35.35円	133.0%
EBITDA	6,829	4,949	138.0%	6,100	112.0%

※EBITDA = 経常利益 - 受取利息 + 支払利息 + 減価償却費

## 2011年3月期第2四半期累計 連結業績(売上高)

### ■ 決算総括

CATV FTTHの増加及び前年のM&Aにより大幅な増収。

CS ホールセール事業の減収をISP事業のFTTHサービスでカバー。

SIS 景気低迷の影響を受けて開発事業の受注は減少、ストックビジネスは順調に推移。

(単位:百万円)

**売上高:23,993百万円**  
(前年同期比 4,014百万円増120.1%)

### 【セグメント別内訳】

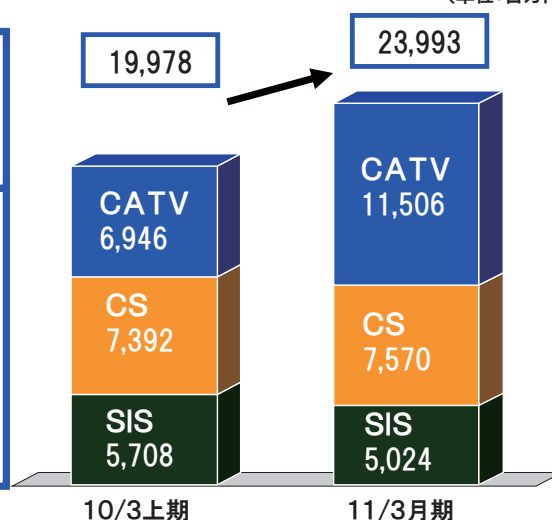
CATV:11,506百万円( 4,560百万円増 166%)

CS : 7,570百万円( 178百万円増 102%)

SIS : 5,024百万円( 684百万円減 88%)

※ ( )は前年同期比

※各セグメントの売上高にはセグメント間の内部売上高が含まれております。



## 2011年3月期第2四半期累計 連結業績(営業利益)

### ■ 決算総括

CATV FTTHの増加及び前年のM&Aによる大幅な利益増。

CS ホールセール事業の減益をISP事業のFTTHサービスでカバー。

SIS 原価管理の徹底による利益確保とストックビジネスの売上増加にともなう利益増。

(単位:百万円)

**営業利益:3,301百万円**  
(前年同期比 993百万円増 143.0%)

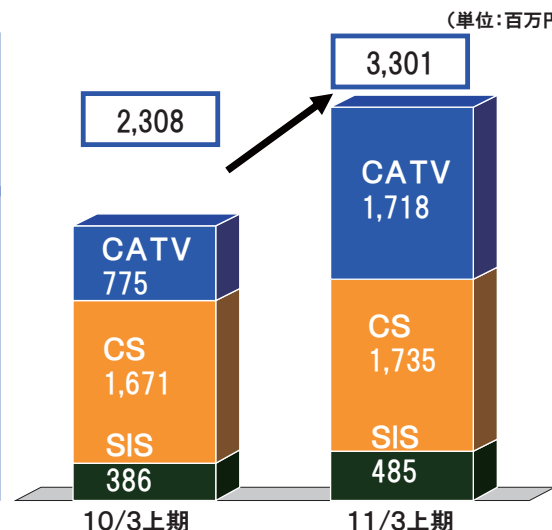
### 【セグメント別内訳】

CATV:1,718百万円( 943百万円増 146%)

CS : 1,735百万円( 63百万円増 111%)

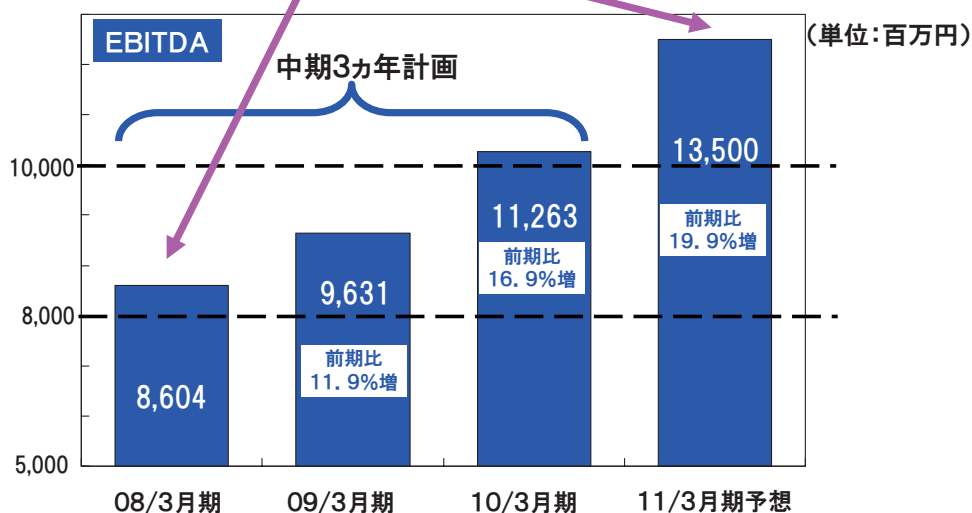
SIS : 485百万円( 98百万円増 112%)

※ ( )は前年同期比



## EBITDAの推移

- 11年3月期は前期比19.9%増加の見込み
- 中期3カ年計画を経てEBITDAは57%の増加



VIC TOKAI @TCOM ※EBITDA = 経常利益 - 受取利息 + 支払利息 + 減価償却費

4

## 2011年3月期通期連結予想 設備投資及び減価償却費

- 11年3月期の設備投資は減価償却費と配当控除後利益19億円で概ね賅う。
- 12年3月期以降の設備投資は償却の範囲内で行い有利子負債の減少に取り組む。

### 設備投資

(単位:億円)

固定資産投資				減価償却費
CATV	CS	SIS	計	
53	19	15	87	66
リース投資				
CATV	CS	SIS	計	
23	—	—	23	

VIC TOKAI @TCOM

5

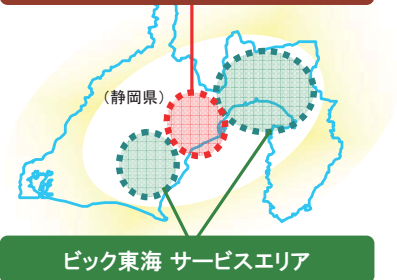
## M&Aによる事業領域の拡大

### (株)ドリームウェーブ静岡の株式譲受の合意

■ 資本金	: 6億8,400万円	■ ホームパス	: 188千世帯
■ 事業内容	: CATV事業、電気通信事業	■ 加入世帯数	: 46千世帯
■ 事業エリア	: 静岡市葵区・駿河区・清水区 他	■ インターネット	: 7千世帯

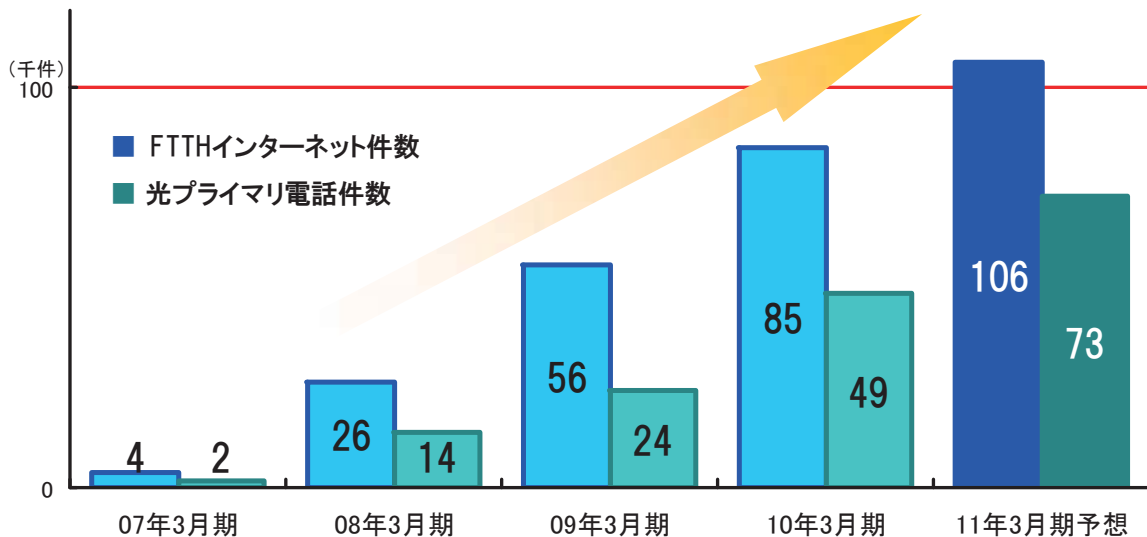
静岡市へエリア拡大をすることで、静岡県東部地区から中部地区に至るまで広域にわたって事業展開し、グループ各社との相乗効果も期待。

ドリームウェーブ静岡 サービスエリア



## CATV—FTTHサービスの普及拡大

CATV—FTTHサービスは、2010年中に中期目標の10万件達成へ。  
⇒ 次世代につながる確かな顧客基盤を構築。さらに持続的な成長へ



# 放送完全デジタル化対策

## STBの無償貸与を実施し、多チャンネル化の積極推進

- ビック東海、エルシーブイ、倉敷ケーブルテレビの3社において、多チャンネルサービス未加入者に対してSTBの無償貸与を実施
- 3社合計で22万台のSTB貸与を計画

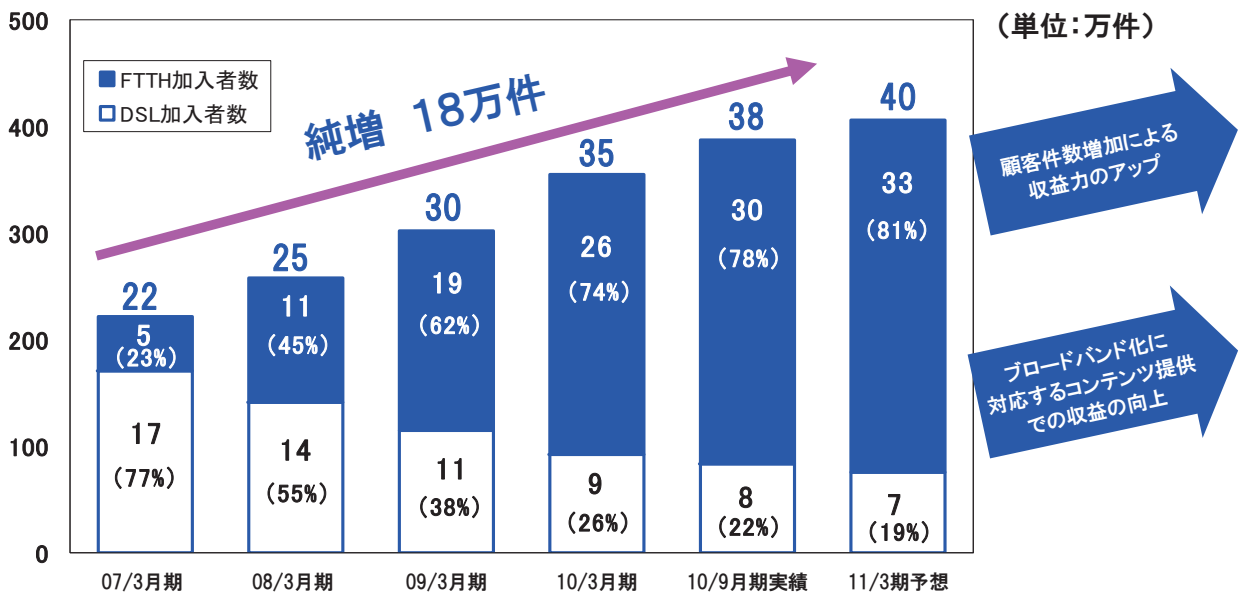
① 既存顧客へのサービス拡充に伴う顧客満足度の向上	地上デジタル7波、BSデジタル10波を視聴可能とし、11年7月のアナログ放送終了を契機とした解約を防止
② 多チャンネルサービスへのグレードアップを推進	STB無償貸与顧客に対して多チャンネルサービスを訴求し、ARPUの向上を図る
③ STBをCATVサービスのホームゲートウェイに	次世代の放送・通信サービスを提供するための基幹端末として、STBを新たなビジネスに活用

VIC TOKAI @TCOM ※STB・・・セットトップボックス。デジタル多チャンネル放送視聴用の端末機器

8

## ISP事業の展開(ブロードバンドサービス加入者数の推移)

- 当社の優れた営業力により顧客件数は増加。  
⇒07/3期～11/3期の5年間で純増18万件！



本資料に記載されている将来に関するすべての記述は、当社グループが現在入手している情報に基づく現時点における予測、想定、期待、評価等を基礎として記載しているに過ぎません。また、予想数値の算定には仮定または仮定に基づく根拠が含まれており、客観的には不正解であったり将来実現しない可能性があります。

その原因となる潜在的リスクや不確定要因としては

「平成22年3月期 決算短信」の「事業等のリスク」にありますので、ご参照ください。但し、業績に影響を与える要因は「事業等のリスク」に記載されている事項に限られるものではないことをご留意願います。

また、本資料・記載データの無断転用はご遠慮下さい。